

米国 ブルーベリー産業は拡大に向け新市場と関税の緩和を目指す

[FreshFruitPortal](#) 2025年10月24日

国内生産の増加と国際的な供給の拡大に伴い、米国ハイブッシュブルーベリー協議会(USHBC)は、新たな市場の開拓と長年停滞していた市場へのアクセス推進に一層力を入れている。最近承認された南アフリカへのアクセスからアジアにおける関税の課題まで、USHBCの会長であるケイシー・クロンキスト氏は、業界が重要な局面にあると述べている。

クロンキスト氏は、IFPA(国際生鮮農産物協会)の2025年グローバル農産物・花卉展示会の会場でFreshFruitPortal.com(本サイト)の取材に応じ、現在米国産ブルーベリーの約25%が主にカナダに輸出されているが、今後の拡大においては東南アジアやその他の高付加価値市場が中心になるとして、「生産者が輸出の取組みを拡大する機会を得ることは、国内外での競争力を維持する総合力の強化につながる」と語った。

南アフリカが市場を開放するも米国産ブルーベリーは出遅れ

10年以上にわたる交渉を経て、米国産ブルーベリーは今年、正式に南アフリカ市場へのアクセスを獲得した。クロンキスト氏はこの進展を歓迎する一方で、数年前ほどのチャンスは得られない可能性があるとは指摘し、「このチャンスは、我々が要望し期待していた時期より10年遅れて実現した。現在では、業界の関心や我々にとってその市場での競争機会があるかどうかを再度評価する必要がある」と話す。

同氏は、最も有望な輸出時期は、南アフリカのプレミアム品目の端境期になる見込みであり、「我々が栽培できて南アフリカでは栽培していないかあるいは入手困難な時期や品目を見極めることが、我々の業界が参入機会を見出す上で大いに有用である」と述べた。

ブルーベリーを巡る煩雑な手続き：アジア太平洋地域の障壁への対応

日本、韓国及びベトナムに対しては限定的な市場アクセスがあるものの、関税や生鮮ブルーベリーに対する制限などの貿易障壁が成長を妨げている。

日本では、冷凍ブルーベリーの輸入に対して糖度に応じて**6～9%の関税**が課されている。北米ブルーベリー評議会(NABC)の政府関係担当部長であるアリッサ・ハウトビー氏は、これは**貿易協定上の見落とし**によるものだと説明し、「これは我々が以前からは正に向けて取り組んできた見落としであり、技術的な修正を試みたものの残念ながら実現には至っていない」と述べた。対照的にカナダ産にはこのような関税が存在せず、価格面で大きな優位性がある。ハウトビー氏は、「日本がより安価なカナダ産を購入する方向に動くため、我々は市場シェアを失っている」と説明する。

韓国では、米国産ブルーベリーのうちオレゴン州産のみが生鮮果実として輸入できる。しかし、USHBCはカリフォルニア州産とワシントン州産への輸入拡大に楽観的である。同氏は「技術的には、病害虫の分布状況が州間で類似しており拡大は比較的容易なはずだ。我々は同様の実施手順を求めている」と述べ、米国農務省(USDA)動植物検疫局(APHIS)と韓国当局との間で協議が進行中であることを明らかにした。

ベトナムでは、既に米国産生鮮ブルーベリーの輸入が可能であり、高い成長の可能性はあるが、全ての形態において関税が障壁となっている。同氏は「ベトナムは確実に拡大できる非常に有望な市場だが、高い関税率により制限されている」と述べた。

USHBCは米国通商当局との協議において、ベトナム、日本及び韓国を最優先として位置付けている。クロンキスト氏は、これらの国々と既に実施中の広範な貿易交渉の中で、ブルーベリーに関する課題が確実に取り上げられることが重要であると強調した。

オーストラリア及びニュージーランドも、特に空輸での生鮮ブルーベリーの輸出に関して長期的なターゲットである。両国との交渉は10年以上継続しており、ハウトビー氏によると、米国側は他の市場で成功した事例を参考にした病害虫リスク評価及びプロトコル案を既に提出済みである。

執筆者：カルラ・エスピノーサ・グティエレス (「輸出の成長が国内の競争力を支える」の項は省略しました。)